

現代陶芸における技術とデザインの融合

Integrating Techniques and Design in Contemporary Pottery

古屋美晴

指導教員 西野隆司

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 価値創造研究室

現在流行しているものと、日本文化を組み合わせ、古くから培われてきた陶芸の技術と、釉薬を研究・調整し作陶することで、新たな表現を見出す。

キーワード：陶芸、釉薬、アフタヌーンティー、和フタヌーンティー、ティーセット

1. 研究の動機と目的

去年の文化祭で陶芸の販売を行い、現在でも陶器の需要が高いことがわかった。伝統的な陶芸技法と現代的なデザインを融合させることにより、新しい表現の可能性を探求したいと考えた。

2. 調査内容

1 作陶するにあたり、陶芸の表現方法に関する調査を行った。

・ろくろ

粘土を円形に成形するための回転式の道具。対照的でなめらかな形を作ることができる。



写真1：ろくろ作業の様子

・たたら板 粘土を均一な厚さになるよう、平らに伸ばして板状にし、それを使って器やオブジェを作る技法。土の加工の工夫で様々なテクスチャのものを作ることができる。

・釉薬

粘土の成形し、素焼きした後にかけるコーテ

ィングのようなもの。かける釉薬により、色や表面の質感に違いが出る。また、草花を乾燥させ作る自然灰釉などもあり、現在ではコーヒーのカスを使用した釉薬もある。

2 新たな表現の探求のため、流行しているアフタヌーンティーについて調査した。

・アフタヌーンティー

1800年代ごろにイギリスの貴族の間で始まった、紅茶などを飲みながら、サンドイッチやスコーン、ケーキなどの間食を楽しむ習慣。現在では「ヌン活」と略され、「ホテルで優雅な時間を過ごしたいが、食事は高額で手を出せない」という、『手の届く範囲の贅沢感』が若者の中で受けている。また推し活の一貫で写真映えを目当てに行く人もいる。



写真2：桜山ホテル アフタヌーンティー

・和フタヌーンティー

抹茶や和栗など、和食材のスイーツを中心に日本茶と紅茶を合わせた、和とアフタヌーンティーを掛け合わせた造語。日本のホテルや料亭で楽しむことができる

3. コンセプトおよびアイデア展開

「和アフタヌーンティー」のティーセットと器の制作を行う。伝統的な陶芸の技術を駆使しながら、アフタヌーンティーのような現代的な要素をビジュアルに組み込みデザインすることで、今までにない陶芸の表現ができるのではないだろうか。

4. 今後の展開・課題

たたら板や削りを用いたテクスチャの研究と、釉薬の研究を行う。その上で使用する技術と釉薬の調整を行い、ティーポットやカップ等様々なものを制作していきたい。

5. 参考文献

- ・下川一哉（監修）、『つなぐ日本のものづくり~51stories of NEW TAKUMI~』,美術出版社,2018
- ・『つくる陶磁郎』編集部、『ロクロ不要？タタラでつくる』,双葉社,2008
- ・北川八郎、『自然灰釉の作り方』,理工学社,2001
- ・アフタヌーンティーとは？特徴や時間、食べ方について徹底解説！,クラシル
<https://www.kurashiru.com/articles/7240ff6c-807a-43ce-819c-6cd9ee2f66fe>（参照 2024-10-17）
- ・坂本リエ,和アフタヌーンティーとは？練りきりをアフタヌーンティーで楽しむ,Kanro
<https://www.kanro.co.jp/sweeten/detail/id=3493>（参照 2024-10-17）